

## 石灰化無定形腫瘍による冠動脈塞栓症の1例

大久保 祐紀<sup>1</sup>、真鍋 涼<sup>1</sup>、河本 康佑<sup>1</sup>

<sup>1</sup>愛媛県立中央病院

【背景】石灰化無定形腫瘍(CAT)は、非腫瘍性心臓重瘤は、脳循環または全身循環に関連する塞栓症は報告されているが、冠動脈塞栓症は稀であるため報告する。【症例】87歳女性突然の胸痛を訴え来院。心電図では、前壁誘導のST上昇を認めた。心エコー検査では、心尖壁運動低下と僧帽弁輪石灰化(MAC)を認めた。冠動脈造影では、左前下行枝遠位部にX線透過性欠損が確認された。血栓吸引除去術を施行し、白色物質を回収し、冠血流を回復させた。CTおよび脳MR Iでは、他の臓器に塞栓症の所見は認められなかった。CAT関連の冠動脈塞栓症は稀であり、確率された治療ガイドラインの欠如から、定期的な心エコー検査による保存的管理を行った。その後安定した状態で退院し、後日検査でも再発を認めなかつた。【考察】CATが冠動脈に塞栓し、STEMIに至ったと考えられた。本症例の課題としては、塞栓の発生源を特定することであった。MACの存在から、MAC上に形成されたCATが塞栓源である可能性が高い。CATはすべての心腔、弁、弁輪から発生する可能性があり、本症例のCATの起源は不明だが、reviewの傾向から僧帽弁周囲から発生した可能性が高いと考えられた。冠動脈内のイメージングと病理学的検査が、冠動脈内の移動による塞栓症の除外と確定診断のために必要である。【結語】CATが冠動脈に塞栓しSTEMIを発症した1例を経験した。